

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 言語活動の充実を図り、児童が思いや考えを表現できる授業の実践
- 認め合い、伝え合い、学び合う授業の実践

牟岐小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 椿野 友絵	委員 校長:竹島 稔 副校長:近藤 憲市 教務主任:浅田 清子 研修主任:岸本 直子
------------------	--

校長

竹島 稔

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な計算ができる。少しでも多くの知識や技能を身につけようと、自主学習等に意欲的に取り組んでいる。 ●長い文章を読み取ることが苦手である。また、語彙が少なく、身につけた知識や技能を言語化することを苦手とする児童が多い。	・文章を整理し、資料や段落相互の内容を関連付けながら読むことができる。 ・学んだことを他の場面でも応用して活用することができる。 ・自分の思いにあった言葉を選び、具体的に伝えることができる。	・振り返りを大切にし、自分の学びの課程や変容を自覚できる振り返りを重視した授業改善に取り組む。 ・語彙力の向上を図るために、毎日の読書時間を確保し、新聞を読む時間や読み聞かせの時間を設ける。また、朝活(ぐんぐんタイム)で言葉集めや短作文、視写等に取り組む。	・教師からおすすめの本を紹介したり、絵本以外の読み聞かせを取り入れたりして読書活動の充実を図る。また、物語の面白さを伝え、長い文章を読みきる力をつける。	・学習アンケートで「自分の思いや考えをもつことができた」と答えた児童の割合が昨年度より約10%アップした。 ・朝活や読書タイムに新聞を読む時間を取り入れたことで少しずつ語彙力・文章力の向上が見られた。しかし、自分の思いを言葉や文章で上手く表現できない児童もいる。	・朝活や読書タイムの取り組みについて、学校全体で共通理解を行ったうえで確実に実施していく。 ・タブレットの効果的な活用について研修を深め、授業に活かしていく。

【各校の取組状況の把握について】

研究授業や授業研究会を通して、取り組み状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全校集会などで活動の感想を发表或し、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる児童が増えてきている。 ●自分と友達の考えを比較したり関連付けたりして考えを深めていくことには課題がある。	・ペア学習やグループ学習の中で全員が自分の考えを伝えることができる。 ・全校集会や代表委員会で、状況を判断して自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。	・伝える意欲を高めるために、まちがいを恐れず安心して発言できる雰囲気づくりを行う。 ・目的に応じてペア・グループを選択した活動を取り入れ、聞く・表現する場面を確保する。 ・話し合い活動で合意形成する力を育てる。	・振り返りなどの文章を書くときに条件を設定し、その条件に即して書く練習を積んでいく。	・ペアやグループでの話し合い活動でタブレットや付箋を活用することで、自分の考えを表現できる児童が増えてきている。 ・全校集会等で異学年とも意見交換をする機会を設けたことで、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞こうとしたりする態度が育ってきている。	・意見を出し合うだけで話し合いを終わらせてしまわないよう、考える視点を提示する等、自分と友達の意見を比較したり関連付けたりして、考えを深められるようにする。 ・振り返りの仕方や書き方のモデルを示し、児童が成果や課題を意識した振り返りができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目に学習に取り組むことができる児童が多い。 ●与えられた課題には一生懸命取り組むが、自ら課題を見つけて計画的に学習に取り組むことが苦手な児童が多い。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・課題解決のために協働しながら取り組むことができる。	・自力解決の時間を確保し、児童間で意見交換をする機会を大切にする事で、解決する喜びを味わわせる。 ・協力的・参加的・体験的な学習を取り入れる。	・タブレットや図鑑等を効果的に活用し、児童が興味・関心に合わせて自主的に調べることができる環境を整える。	・体験学習を多く取り入れたことで、自ら調べたり質問したりして、主体的に解決しようとする児童が増えた。 ・学習アンケートで「失敗を恐れず、何事にもチャレンジすることができた」と答えた児童の割合が昨年度より約15%アップした。	・児童が目的意識を持って取り組めるよう、個に応じた課題設定の仕方を工夫する。 ・課題が解決したときの喜びを味わうことができるよう、互いにコミュニケーションをとりながら協働学習を進めていく。

令和6年度 学力向上ロードマップ

